



問

## 職員一人一人が働きがいを持てる職場環境づくりとは

令和7年度施政方針において前葉市長は、「将来に向けて新たな価値を創造する」、「歌舞伎の廻り舞台のように、まちづくりを演じる舞台の床がぐるりと回転し、今演じている場面から新たな場面へと転換する」と述べている。これを受け、行政職員には、将来に向けて新たな価値を創造する研修と職場環境づくりが求められる。職員一人一人が働きがいを持てる職場環境づくりを問う。

答

## 職員の声を尊重しながら、研修やセミナーを充実させていく

本市では、職員一人一人のやりがいを高めるための取り組みとして、さまざまな研修やセミナーを開催している。

職員が働きがいを実感できる職場環境づくりは、一朝一夕に達成できるものではなく、その大切さに職員一人一人が気づき、当事者として地道に努力を重ねていかなければならないものだと考えている。このことから、まずは、これまでの取り組みから得られた職員の声や社会環境の変化等を踏まえ、必要な改善を加えつつ、各種の研修やセミナーの継続的な実施に取り組んでいく。

### その他の質疑・質問

- 施政方針より
- こども・子育て政策について
- 都市づくりについて
- 「電子図書館サービス」の導入の取り組みについて
- 風水害時の避難指示などの発令と解除のタイミングは

新規採用職員研修の様子



問

## 津市の魅力の発信（PR）について問う

全国的な少子高齢化の中で、地方では若者の都市部への流出対策が非常に大きな課題となり、津市においても課題となっている。津市を魅力的だ、暮らしやすそうだと感じてもらえるなら、津市で暮らしてみたいと考える若者が増加するかもしれない。そこで、デジタル世代の若者層の心をつかむために動画を活用した情報発信をしたり、若者の意見を取り入れる取り組みをしてはどうか。

答

## 今後も効果的なシティプロモーションの手法を検討していく

津市ではこれまで、市内でロケが行われた映画「浅田家！」の公開に合わせた津市PR動画や市内のドライブコースを紹介する動画などを作成し、津市公式YouTubeチャンネルで公開しており、今後も効果的なシティプロモーションの手法を鋭意検討していく。

また、市政運営を進める上で若い世代の意見は重要だと考えていることから、シティプロモーションにおいても、これまでのように行政側だけで施策を構築していくのではなく、若者を含めた幅広い世代から広く意見を聞き、取り入れる手法を講じながら効果的に展開していく。

### その他の質疑・質問

- 産前・子育て応援ヘルパー派遣事業について
- 多子世帯への支援を
- こども誰でも通園制度について
- 津城跡について
- 大門・丸之内地区について
- エリアプラットフォームの自立的な運営は
- デジタル図書館について

松の木の根で膨らみ崩壊が心配される津城跡の石垣

